

みずほCustomer Desk Report 2020/02/06号(As of 2020/02/05)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	109.46
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	109.45	1.1045	120.88	1.3030	0.6732
SYD-NY High	109.85	1.1047	121.15	1.3070	0.6774
SYD-NY Low	109.31	1.0994	120.67	1.2957	0.6724
NY 5:00 PM	109.84	1.0998	120.76	1.2996	0.6747
NY DOW	29,290.85	483.22	日本2年債	-0.140	1.00bp
NASDAQ	9,508.68	40.71	日本10年債	-0.040	1.00bp
S&P	3,334.69	37.10	米国2年債	1.4421	2.91bp
日経平均	23,319.56	234.97	米国5年債	1.4623	4.09bp
TOPIX	1,701.83	17.59	米国10年債	1.6483	4.66bp
シカゴ日経先物	23,695.00	315.00	独10年債	-0.3615	3.85bp
ロンドンFT	7,482.48	42.66	英10年債	0.6140	5.00bp
DAX	13,478.33	196.59	豪10年債	1.0130	10.90bp
ハンセン指数	26,786.74	110.76	USDJPY 1M Vol	4.87	▲0.09%
上海総合	2,818.09	34.80	USDJPY 3M Vol	5.08	▲0.04%
NY金	1,562.80	7.30	USDJPY 6M Vol	5.31	▲0.05%
WTI	50.75	1.14	USDJPY 1M 25RR	-1.20	Yen Call Over
CRB指数	169.54	1.61	EURJPY 3M Vol	5.70	0.03%
ドルインデックス	98.26	0.30	EURJPY 6M Vol	5.98	▲0.04%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想	
2月5日	19:00	欧	小売売上高(前月比)	12月 -1.6%	-1.1%
	22:15	米	ADP雇用統計	1月 291k	157k
	22:30	米	貿易収支	12月 -\$48.9b	-\$48.2b
2月6日	00:00	米	ISM非製造業指数	1月 55.5	55.1

【本日の予定】

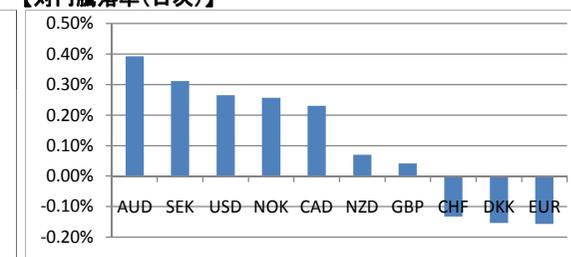
Date	Time	Event	予想	前回	
2月6日	22:30	米	新規失業保険申請件数	1-Feb 215k	216k
	23:15	米	カプラン・ダラス連銀総裁 講演	-	-

東京	東京時間のドル円は109.45レベルでオープン。グローバルに株式市場は堅調に推移し、リスクオフの後退が見られるものの、ドル円については109円台半ばで揉み合う展開。結局、109.44レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、109.44レベルでオープン。朝方に、英報道機関から「新型コロナウイルスのワクチン開発で大きな進展があった」という報道が流れると、109.72まで上昇。その後、世界保健機関(WHO)が同ワクチンについて「効果があるか不明」との見解を示唆するとリスク回避の円買いが優勢となり、一時109円半ばまで下げたが、ドル買いが再び強まり、109.69レベルでNYに渡った。ホントドルは、1.3013レベルでオープン。早朝からホント買いが優勢。午前中に1月のサービスPMIが53.9と、2018年9月以来の高水準となったことを受け、1.3070まで上昇。1.3043レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	ニューヨーク市場のドル円は109.69レベルでNYオープン。朝方は米1月ADP雇用統計が予想を大幅に上回ったことに買いで反応し、一時109.82まで上昇。その後、高値圏でもみ合いが続く。10時発表の米1月ISM非製造業指数がわずかに予想を上回ると109.85まで高値を更新。買い一巡後、109.65まで反落するが、米株や米金利の堅調推移を背景に再びじりじりと上昇。終盤に米上院の弾劾裁判でトランプ大統領の無罪判決が決まったと伝わるが、予想通りの結果にドル円も反応薄。S&P500種やナスダック総合指数が史上最高値を更新する中、ドル円は高値圏で推移し、109.84レベルでクロス。一方、ユーロは1.1023レベルでNYオープン。朝方はラトルECB総裁が「新型コロナウイルスは経済に新たな不透明感をもたらしている」と述べるもユーロの反応は限定的だった。その後は米経済指標が予想を上回り、ドル買いが先行する中、じりじりと1.1001レベルを割り込み1.0994をつける。終盤にかけて小幅値を戻し、結局1.0998レベルでクロス。

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 新興国通貨は今年も個別国でまちまちな展開か

1ヶ月前に市場の耳目を集めたイラン情勢はあっさり消化され、目下、世の注目は新型コロナウイルスに集まっている。世界での感染者数は2万人を超え、本邦の感染者数も35名に上るとのことだ。今後も感染者数の増加は免れそうにないものの、マーケットの反応を見ると、「材料」としては既に消化しきってしまった感が否めない。無論、新型コロナウイルスが実体経済に与える影響は読みきれておらず、予断を許さない状況は続くものの、今後の市場の動向を占う上では、一旦リセットして考えた方がよいだろう。翻って、アジア各国の通貨の動きを見てみると、コロナウイルスを消化して、強弱まちまちの動きとなっている。強い通貨の筆頭は、ミャンマーチャットである。こうした相場を語る場面では登場する機会の少ない通貨ではあるが、貿易赤字の縮小に加えて、好調な直接投資の流入が基礎収支の改善に繋がっており、他のアジア通貨を差置いて、独歩高の様相を示している。需給の観点から、シーズンリテティにも、年初に買われやすい通貨となっており、今年も例年に違わずといったところだ。その他、台湾ドルも春節前後で一時売られたものの、半導体市場の回復にサポートされる形で、底型さが際立っている。反面、タイバーツは1月までの強さから一転、軟調な展開となっている。上述新型コロナウイルスに起因する中国からの旅行者数の減少は、旅行収支の黒字額が大きい同国にとっては、マイナス影響が大きいほか、大型買収に伴うパーツ売り外貨買いの動きも足下のパーツ安の一つの要素となっている。昨年続き、日欧米各国が緩和スタンスを維持する中、新興国全般を動意づかせる材料が出てくるような展開は見込みにくく、2020年も新興国通貨については個別国で材料を見ていく必要がありそうだ。(伊藤)

■今週のドル/円 見直し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
フル	ペア	フル	ペア	ペア	フル	ペア	フル	ペア	フル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
フル	フル	ペア	ペア	ペア	フル	ペア	フル	フル	フル

フル	ペア
11	9

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。